

医療連携システム「日常人間ドック：はかる－わかる－おくる」が「2021年度グッドデザイン賞」を受賞

東北大学革新的イノベーション研究プロジェクト(COI 東北拠点)の取り組みが、このたび 2021 年度グッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。人生 100 年時代を支えるデザインとテクノロジーを展開する医療連携システム「日常人間ドック：はかる－わかる－おくる」としてそのデザインが高く評価されました。当プロジェクトでは今回の受賞を契機に理想のウェルビーイングを実現するエコシステムの実現を図るとともに、医療連携におけるデザインの活用を積極的に推進し、社会実装の向上に務めてまいります。

□ 受賞名：医療連携システム「日常人間ドック：はかる－わかる－おくる」

□ サービス概要：さりげないセンシングデータの連携を軸に、大学の研究に基づく知見と、企業群が得意領域でプロダクトやサービスを設計し、知的財産権や商標を共有にしたアンダーワンルーフ契約のもとで、“自分と大切な人”の健康を守るデータ連携の多元的事業を展開

□ デザイナー：NEC ソリューションイノベータ株式会社
フォーネスライフ株式会社
COI 東北拠点長 和賀 徹

□ デザイナーからのコメント：企業や大学の英知を集め、各センサと人工知能の仕組みを“大切な人と自分たちのため”に社会実装するあたたかいデザインコンセプトに、ご評価頂戴しましたこと恐縮です。感謝いたします。

□ デザイナー：株式会社フューチャーセッションズ
代表取締役 有福 英幸 (COI 参画企業)

□ デザイナーからのコメント：COI 東北拠点に参画する多数の研究者、企業の方々と、ビジョン実現に向けたデザインコンセプトを共創しました。今回の評価を受けて、より多くの共感が必要となる社会実装の弾みにしたいと思います。

□ グッドデザイン賞審査委員による評価コメント：多くの人にとって自分ごとであるはずの「健康」だが、現状の人間ドックや健康診断では、習慣的・予防的行動につなげることは難しい。本プロジェクトは、様々なセンシング技術を生活に埋め込むことで日常的な診断を実現。産官学の役割を整理し、個人情報管理や公的補助の課題解決をも見込んだ優れた連携を実現している。モデル事業として、各地への普及と発展を期待したい。

□ グッドデザイン賞ウェブサイトでの紹介ページ

<https://www.g-mark.org/award/describe/52867?token=OzZ5zf78Sz>

グッドデザイン賞とは-----

1957 年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「G マーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

<http://www.g-mark.org/>



このプレスリリースに関するお問い合わせ先
国立大学法人東北大学 産学連携機構 イノベーション戦略推進センター 事務支援室
TEL: 022-752-2187 E-mail: promo-innov-koho@grp.tohoku.ac.jp